



マスコットキャラクター
「たねっこ」

種まき通信

第 35 号 編集・発行：田根地区・地域づくり協議会（愛称：種まき塾）
2021.12 〒526-0273 長浜市高畑町 316-1 田根まちセン内 TEL 74-1450

皆様には、田根地区・地域づくり協議会（種まき塾）の活動に格段のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年度は、昨年に続き新型コロナウイルスの脅威にさらされながらの一年となり、思い通りの活動、行事の実施が困難な状況が続きしました。

このような中でも、各部会ではいろいろ知恵を出し合って活動を行っていただきました。特に、慶應義塾大学、東京大学、滋賀大学等との協働ワークショップを通じて、皆様のご協力をいただきながら、田根の活性化、将来を模索してゆく活動

を続けることができました。

また、来春から地域おこし協力隊として、田根に一名の方が着任してもらうことになりました。今後、この方を通じても皆さんと共に地域おこしの輪が広がっていくことを期待するものであります。

それと、これまで市の直営となっておりました田根まちづくりセンターが、来年度より田根地区・地域づくり協議会が指定管理者として、運営することになりました。

これはセンターが、これまで以上に住民の皆さんに愛着を持ってもらい、気軽に利用でき、生活の拠点となる施設として

人と人との つながりを大切に！

令和三年度 田根地区・地域づくり協議会

会長 中居 康幸

の役割を、十分機能させるためのものです。今後皆様のご利用がますます増えていきますように期待しております。

さて、このコロナ禍の中で、我々はこれまでと大きく違った生活を余儀なくされております。また、これが今後いつまで続くのかもわかりません。こんな中、人と人とのつながりがややもすると希薄になってゆく、そんな危惧をも抱く今日であります。こういう時だからこそ、我々田舎人の心のつながりの強固さで、しっかり乗り越えていかなければなりません。種まき塾が、その一助になると確信しております。

皆様の積極的なご参加ご協力をよろしくお願い申し上げます。



大学との協働ワークショップ

・慶應義塾大学・東京大学・滋賀大学・

慶應義塾大学・虎姫高校

サマーセミナー

去る八月五日、六日の二日間、慶應大学生と虎姫高校生による恒例のサマーセミナーが行われました。

今年も建築系大学生の指導による空き家の改修作業でした。今回は、昔使われていた掘りごたつを利用した囲炉裏の製作です。

二日間どこまでできるか心配しましたが、立派な囲炉裏が完成しました。

コロナ禍の中で様々な対策を取りながらの作業となり、残念ながら住民との交流会を開催することはできませんでしたが、大学生と高校生の間ではセミナーが終わった現在もインターネットを介して交流があるそうです。



完成した囲炉裏を囲む慶大生と虎高生

東京大学FS型

政策協働プログラム

田根地協では平成一九年から慶應大学やMITとの協働ワークショップを実施してきましたが、MITとは平成二八年に教授が退官され疎遠になっています。



営農組合長からの聴き取り

そこで、新たな大学との関係づくりを模索するため、昨年、市や県を通じて「東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム」の受け入れを申請しました。

その結果、四名の東大生が田根の地域課題に対して、その解決の道筋を提案してくれることになりました。

具体的には一年をかけて事前調査や現地活動、事後調査を行ってくれます。

今年は新型コロナの影響で現地活動はできなくてオンラインによるワークショップがほとんどでしたが、緊急事態宣言が解除されたことを受けて、去る一月二〇日から二二日までの二泊三日で現地活動が実現しました。



木尾町のいちごハウスを視察する東大生

訪れたのは三回生と四回生の各一名、大学院博士課程が二名です。内一人は台湾からの留学生でした。

このプログラムは、東京大学が社会的課題に対して果敢に挑戦するリーダー人材として学生を育成するものです。自校の学生に対する教育プログラムなので、彼らの提案がすぐに地域で役立つとは思えませんが、今回は東京大学との関係づくりが一番の目的です。一年限りの関係になるか息の長い交流ができるかはまだわかりませんが、都会の学生との交流が地域の子どもたちにとってよい刺激になればと思います。



西池のほとりの東屋でヒアリング

滋賀大学経済学部森ゼミでは、長浜市政策デザイン課と協働して、長浜市全域のフィールドワーク調査をされています。その一環で、田根のいくつかの自治会からヒアリングをさせていただけないかとの依頼があり、木尾町と池奥町、そして谷口町が調査に協力しました。

去る五月二二日、西池のほとりで行われた第一回ヒアリングの主な内容は、次のとおりです。

A. 自然環境の良さ

- 一. 地域が誇りにしている自然環境は何ですか。
- 二. 地域の自然環境を守るために、どのような取り組みをしていますか。
- 三. この地域の自然について、都会の人に理解してもらいたいことは何ですか。

B. 生活様式と生業の独自性

- 一. この地域の人の生業は何ですか。
- 二. 地域の人は、普段の休日をどのように過ごしていますか。
- 三. この地域の普段の移動手段は何ですか。（車以外の移動手段は？）
- 四. 地域に、どれくらい空き家がありますか。
- 五. 地域として空き家の利活用に取り組んでいますか。
- 六. 地域外部から、縁もゆかりもない人の移住を受け入れていますか。
- 七. 空き家を貸すときの条件は何ですか。空き家を貸すか貸さないかをどのように意思決定しますか。

C. 地域のつながりの強さ

- 一. 地域の人々は、どのように結びついていますか。
- 二. 地域の人々がよく集まる場所はどこですか。
- 三. 小学生以下の子どもは、どこで遊んでいますか。
- 四. この地域の人々は、地域のお祭りにどれくらい来ますか。
- 五. この地域出身で、現在地域の外に住んでいる人は、地域の祭りに帰ってきますか。
- 六. 新しく移住してきた人は、地域の人々とどのようににかかわり始めますか？
- 七. 外から移住してくる人（この地域出身者を含む）のために、地域で取り組んでいることはありますか。

多岐にわたる内容で、改めて問われると答えに窮するものもありましたが、地域を見直す良い機会になりました。

また、去る一〇月三〇日には水稲耕作や集落維持に関する二回目のヒアリングがありましたが、このときは滋賀大学と



滋賀大学の教授と学生、対応する地域づくり協議会

もに東京大学・生産技術研究所の准教授も同席されました。滋賀大教授の友人だそうで、一回目のときに、田根では慶應大学やM-I-Tなど大学との交流が続けてきたことを話していたので、関心をもっていただき来訪されたとのことでした。

東大の生産技術研究所には、和歌山市加太地区にサテライト研究室を開設された教授が所属されています。田根にもサテライト研究室「田根ラボ」ができるといいですね。できれば田根小学校の中に！

田根まちづくりセンター

所長並びに事務員の募集について

去る一〇月二〇日、市役所で田根まちづくりセンター指定管理者選定委員会が開催され、審査の結果、田根地区・地域づくり協議会が指定管理者候補に選定され、その後、一二月二日の長浜市議会の議決を経て正式に決定されました。

そこで、地域づくり協議会では、令和四年四月からまちづくりセンターの管理運営に従事していただく所長並びに事務員各一名を募集させていただきました。

一月下旬から二月上旬頃、ハローワークを通じて公募させていただく予定です。勤務条件など詳細をご確認ください。

なお、まちづくりセンター内にも内容がわかるチラシを設置する予定です。

地域づくり協議会ではまちづくりセンターの管理運営にあたり、次のことを基本方針として市に提案しています。

【つながり支援センター】

「集う」場所から「つながる」拠点へと果たす役割を強化し、あらゆるヒト、モノ、カネ、情報の交流を支援する「つながり支援センター」を目指します。

【暮らしの多機能拠点】

まちづくりセンターを住民の暮らしや心の拠り所として位置づけ、暮らしを支える様々な機能を持たせます。

こうした方針のもと、市民まちづくりセンター条例が定める「地域における市民主体の特色あるまちづくりの拠点」としてセンターを位置づけたいと考えています。

趣旨にご賛同いただき、共に地域づくり活動に取り組んでいただける方のご応募をお待ちしています。

ようこそ田根へ

地域おこし協力隊！

来春、田根に地域おこし協力隊が着任されます。

地域おこし協力隊とは、都市圏在住の若者が自治体からの委嘱を受けて地域活性化の支援を行う人たちのことで、委嘱期間は最長三年。その後は定住することが求められています。

長浜市でも以前から取り組んでいて、余呉や木之本地域を中心に都会から若者が移り住み、様々な地域活動を行っています。

今年度も市が数名を募集され、うち一名が田根地域で活動されることになりました。

着任予定の協力隊は、横浜市在住の三五歳男性、堀田さんです。

一〇月下旬、初めて奥さんといっしょに田根にお越しくださいました。残念ながら奥さんは三年間、横浜の専門学校に通われるため、単身での

活動になりますが、四年目以降二人揃っての移住を期待しています。

堀田さんには、空き家活用システム化や大学・企業との交流事業の企画運営などを担っていただく予定です。

近くで見かけたら、気軽に声をかけてあげてください。地域の皆さんとの交流も大切な任務です。



田根を訪れた堀田夫妻